



帝京大学医学部附属病院

TEIKYO 〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL.03-3964-1211(代表) http://www.teikyo-hospital.jp/

診療科の垣根を越えた ハートチームが低侵襲治療に 力を尽くす



歴史をしのぐ未来へ

◆地域がん診療連携拠点病院 ◆特定機能病院 ◆東京都災害拠点病院 ◆救急告示医療機関

高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター併設

循環器センターでの年間治療実績 (2016年1月～12月)

冠動脈インターベンション (PCI)	457件
冠動脈バイパス術	103件
弁膜症手術	103件
経カテーテル的大動脈弁置換術	101件
大動脈人工血管置換	105件
胸部ステントグラフト	30件
腹部ステントグラフト	29件
末梢血管バイパス術	6件
末梢血管インターベンション	88件
カテーテルアブレーション	105件
ペースメーカー植え込み	52件
植え込み型除細動器植え込み	6件
心臓同期療法 (CRT)	14件
心臓リハビリテーション 年間延べ件数	12,702件



外科手術とカテーテル治療を同時に行えるハイブリッド手術室で、ハートチームが一丸となってTAVIを実践

チームとしての総合力を いかした低侵襲治療を 実践

最近では、ハートチームとしての総合力が不可欠といえ

最先端の治療法・技術を率先して導入
帝京大学医学部附属病院の循環器センターでは、循環器内科医や心臓血管外科医、コメディカルからなる「ハートチーム」が心疾患の治療を担う。同センターでは内科・外科が病棟を共有。診療科の垣



循環器センター長
循環器内科長・教授
上妻 謙



循環器内科助教
渡邊 雄介



循環器内科助教
渡 雄至

根を越えたチームとして、随時情報を交換しながら、最善の治療を検討・提供している。「患者さんの負担が少なく、かつ成績が良い治療を確立していくために、最先端の治療法・技術を積極的に導入しています」と上妻謙医師は話す。同センターでは年間4000件以上のPCI治療の実績を長年にわたって積み重ねている(2000年1月～2016年12月・病院移転時を除く)。そのうえで、生体に次第に吸収されていくステントを用いたり、抗血小板薬の使用量の低減を目指すなど、新たな取り組みにも力を入れている。また冠動脈バイパス術では、バイパス用の血管の採取に患部の拡大視・3D表示が可能な手術支援ロボット「ダビンチ」を活用。低侵襲化の試みは細部にまで及んでいる。心臓弁膜症などの手術には、

肋間の小さな切開から治療する低侵襲心臓手術・MICSを導入している。「切開範囲が大きく抑えられるため、早期社会復帰や整容性の面で優れ、注目されている治療法です」(松山重文医師)。また同院は末期重症心不全の外科治療である植込型補助人工心臓の実施施設に2015年4月から認定されており、何時でも対応が可能だという。不整脈へのカテーテルアブレーションでは、カテーテルの動きや心臓・血管の位置を立体的に表示できる「3Dマップングシステム」を利用し、より安全・質の高い治療を追求。心不全に対するペースメーカーを用いた心臓同期療法などもいち早く取り入れている。「こうした最先端の治療の内容を丁寧に説明し、患者さんのご希望に応じたテーラーメイド治療が実現できていると思います」(渡雄至医師)

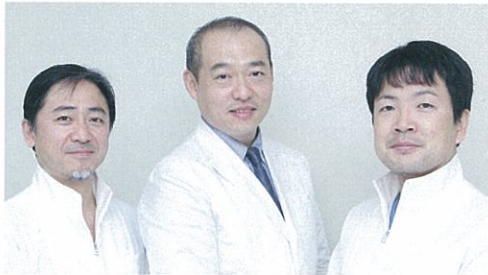
る治療も登場している。その1つが大動脈弁狭窄症の低侵襲治療「TAVI」だ。「TAVIは手術が適応できない患者さんに向けて開発された治療法です。普及が進み、多くの患者さんの助けとなることを期待しています」(渡邊雄介医師)。TAVIの実施には熟練した心臓血管外科医と循環器内科医の連携が欠かせない。同センターではこの治療法に習熟し、指導的立場にある渡邊医師のもとで、年間治療実績が1000件を突破(2016年1～12月)。更なる治療成績の向上も目指している。大動脈瘤へのステントグラフトもまた、同センターの得意とする治療だ。入院期間が大幅に短縮でき、筋肉や体力の喪失が最小限に抑えられるメリットがある。「弓部などの難症例には、バイパスの形成後にステントグラフトを

実施するデブランピング法や、ステントグラフトと人工血管置換術を併用するオープンステントグラフトなどの高難度の手術も行っています」(今水 流智浩医師) 心臓リハビリテーションでQOLの回復を目指す 同センターでは治療後の心

臓リハビリテーションにも重点を置く。医師やスタッフによる綿密なサポートのもとでのリハビリや、看護面談などによる危険因子の是正を通じ、術後のQOLの向上を徹底。そうしたチーム一丸となった体制は、救急でも活かされている。「急患に対しても決して断ることなく、病院到着から30分以内に手術を開始する、迅速な対応を実現しています」(飯田充医師)。患者により良い治療の実現に全力を挙げるからこそ、まさに帝京大学医学部附属病院のスタイルといえるだろう。取材/滝戸直央



心臓血管外科科長・主任教授
下川 智樹



心臓血管外科講師
飯田 充

心臓血管外科講師
今水流 智浩

心臓血管外科
非常勤講師
松山 重文



病院らしくない雰囲気を意識して設置されたという、心臓リハビリテーション室では、運動プログラムや集団運動療法などが可能